代表取締役 社長 **有松 敏樹** 氏　　取締役 副社長 **有松 興子** 氏

三巧印刷 株式会社 様

東京都足立区鹿浜1-17-5
TEL. 03-3897-3055
創業：2012年7月
（アート印刷株式会社のグループ会社として創業）
代表取締役社長：有松 敏樹

何よりの武器は印刷精度の高さ LED-UV 乾燥装置搭載の 940 モデル導入で、小ロットものの受注体制を強化

三巧印刷株式会社は、美術書や写真集、ポスターなどの高級美術印刷を得意とし、印刷工場・ロジスティックセンターを構える総合印刷業「アート印刷株式会社」グループ会社３社のうちの１社である。優れた人材と高い技術、独自の工場、豊富な経験からなる高精度な印刷品質に定評がある。菊全判印刷機のフル生産体制を整えている同社が、2016年3月に導入したのが、LED-UV 乾燥装置搭載のA全判印刷機 RMGT 940 モデルである。その導入のきっかけや導入成果について、アート印刷株式会社および同社社長の有松 敏樹氏と、副社長の有松 興子氏にお聞きした。

教科書、地図印刷で実証されている確かな印刷技術

三巧印刷株式会社は 2012 年 7 月アート印刷のグループ会社として設立。教科書、地図などの高精度印刷に強みをもっており、パンフレットやカタログなどの商業印刷全般を扱う印刷会社である。また、アート印刷との協業の中で、医学書、絵本の印刷も行っている。色の再現性の高さやミスの少なさなどの品質はもちろん、独自のロジスティックサービスを展開し、納品までのスピードが非常に速いことも強みになっている。

A全対応の 940 モデルのコストメリットに驚き、導入を決定

同社ではこれまで三菱製の両面兼用印刷機が 1 台、片面印刷機が 4 台の 5 台体制で生産を行ってきた。用紙サイズが異なる A全判印刷機 RMGT 940 モデルを追加導入した経緯について、有松社長は次のように語る。「2015 年の 9 月頃に、リョービ MHI グラフィックテクノロジーの片山本部長より、新しい機械ができたので是非導入を検討してくれないかとお話を伺ったのが最初で、すぐに検討にはいりました。従来、印刷機の主力としていたのが、三菱の枚葉オフセット印刷機 DAIYA シリーズの菊全判サイズ機です。大きい印刷物にも対応できるようにと菊全判機で揃えていたわけですが、実際のところ、そんなに大きい印刷の注文は頻繁にはありません。当社の場合、A全サイズ程度の絵柄が多く、版を作るのにも無駄となることがありました。また最近、コストダウンのために用紙サイズを小さくする傾向もあります。こうした状況の中で、940 モデルは菊全用紙の印刷に対応できる一方、菊全機に比べて刷版代・電気代を安く抑えることができます。刷版コストでは実に 1 版あたり約 24％もコスト削減ができます。

当社は小ロットの印刷を多数こなすという特徴があるので、A全判機の導入は相当のコストメリットがあります。こうした点を評価して 940 モデルの導入を決定しました。」

LED-UV 乾燥装置搭載 A全判オフセット印刷機 RMGT 940ST-4
（大画面のプレスインフォメーションディスプレイを装備）

有松社長ご夫妻と、取締役工場長　佐々木正則氏（写真右）

アート印刷グループで手がけている、
多種多様な印刷物。グループの連携で、
お客様ニーズに細かく対応。

ロングセラーの
絵本、児童書の数々

医学生を対象に発行している教育書籍
高度な印刷技術で症例写真を鮮明に再現

カラーマネジメントも万全の
パッケージ製品

納期短縮と、品質保証の要求に対応

同社では940モデルの導入に合わせて2つの装置、LED-UV乾燥装置とインラインの品質検査装置を搭載し、納期短縮と品質保証の要求に対応している。「当社の持ち味である納期短縮のためには、瞬時に乾燥するLED-UV乾燥装置が必要不可欠でした。

不良紙発生を検査する、インラインの品質検査装置

タブレットPCで給紙部から排紙状態をリアルタイムで確認中

また、UV印刷を進める上では消費電力が常に問題になります。この点LED-UVは消費電力がランプ方式に比べて大きく削減できるので、940モデルとの相乗効果で大きなコストメリットがでます。」また、品質検査装置について有松副社長は、「現在、たくさん注文を頂いている地図・教科書は共に非常に高い品質を求められる商品で、そうしたお客様のご要望に対応するため導入しています。不良流出を防ぐためには一枚一枚絵柄を確実に検査できる、品質検査装置の導入が欠かせませんでした。」とその導入理由を述べている。

外注費抑制にも大きな効果を発揮

導入して4ヶ月あまりが経過して、940モデルでは小ロット印刷を中心に順調に稼動を続けている。1昼夜で最大、34台こなしたこともあるという。940モデルの導入効果について有松社長は次のように分析している。「使用感としては、印刷スピードはもとより、刷版交換が速く、精度が高いので、1,000部、2,000部の多版・小ロットの仕事に非常に適しています。5時間かかっていた仕事が3時間でできるなど、確かな時間短縮になっています。当然コスト面でも予測どおりの削減ができたわけですが、外注費用の削減にもつながりました。」（有松社長）

新台機導入で印刷現場の
雰囲気が良くなったという
有松副社長

940モデルの導入によって印刷現場の雰囲気も変わったという有松副社長。「当社では社員教育を重視していますが、今回の機械導入では、特に若い社員が自ら話し合いを進めて、操作方法やその日の反省点を共有・勉強しようという雰囲気が出ています。こうした雰囲気作りにも、良いきっかけとなりました。」

小ロットの書籍印刷が次なるターゲット

地図や教科書、パンフレット、包装紙などの商業印刷をベースに、即乾性とスピードが求められるジャンルの仕事に、940モデルの活用範囲が広がっている。「今後は小ロットものの受注体制を強化し、納期も短期間にする目標をたてて進めていきます。具体的には図鑑や参考書、医学書などの専門書に代表される、ページ数はあるが発行部数が少ない書籍印刷などです。今後こうした仕事を増やして、1昼夜で最大35台から36台はコンスタントにこなせるようにしていきたいです。」と数値目標を掲げる有松社長。

堅実かつ大胆に、新たなビジネスモデルを創造

有松社長は今後の経営ビジョンについて、まず堅実さが大切と強調する。「印刷業界全体が厳しい状況の中で、当社だけが劇的に数値を伸ばすことは有り得ない話です。今ある仕事をいかにミスなく、効率的にやるかを大切にしていきます。その上で、新たな分野、例えば樹脂系のフィルム、ダンボールなど紙以外のものへの印刷にも取り組んで参ります。素材によって、店舗の看板やオリジナルグッズとしての販促ツールや展示会パネルなど様々な使い方が考えられ、一定の需要を開拓できる分野だと思っています。印刷技術も日進月歩。新しい技術・アイディアにチャレンジできるような印刷機器の開発にも期待しています。」

写真左：菱栄機械株式会社
代表取締役社長　高木 雄二
写真右：リョービMHIグラフィックテクノロジー株式会社
東日本営業部　東京営業一課　村上 卓也

三菱機の時からお世話になっている三巧印刷株式会社様に、新商品のRMGT 940モデルをご紹介しました。菊全紙対応という点とA全機のコストメリットを評価してご導入いただきました。今度ともお客様とのパートナーシップを大切にし、課題解決の糸口を提案してまいります。（高木社長）